

色麻NAVI

しかまから～



色麻の水

湧水が色麻の
農業を支える



お問合せ

色麻町役場 企画情報課

〒981-4122 宮城県加美郡色麻町四竈字北谷地41番地
TEL 0229-65-2127 <https://www.town.shikama.miyagi.jp/>

色麻町移住定住



[YouTube]

shikamers_life



[Instagram]

つながる

つなげる

愛すべきおとなりさん

一日は、きつとありふれた日々。

でもそれが積み重なって、今の暮らしがあります。

やりたいことが出来るのは、決して自分の力だけじゃない。

隣人や志を同じくする人と繋がって、夢は形になっていきます。

生きて行くうえで、一番大切なことって何だろう。

その答えが、きつとここにあります。



P.03 繁殖農家 橋本 拓末さん Takumi Hashimoto



P.04 ねぎ農家 庄子 智弘さん Tomohiro Shoji



P.05 地域おこし協力隊 高橋 美智子さん Michiko Takahashi



P.06 地域おこし協力隊を支える 佐藤 多加二さん Takaji Sato
佐藤 桂子さん Keiko Sato
佐藤 大樹さん Daiki Sato



P.07 地域おこし協力隊 長谷川 巧さん Takumi Hasegawa



P.08 地域おこし協力隊 太田 幸啓さん Yukihiro Ohta



P.09 早坂果樹園 早坂 康雄さん Yasuo Hayasaka
早坂 敬子さん Keiko Hayasaka



P.10 Apple Factory 小林 歌純さん Kasumi Kobayashi



P.10 Apple Factory 石岡 美鈴さん Misuzu Ishioka



P.11 Rice Field 浦山 利定さん Toshisada Urayama



P.12 asahi farm 佐藤 晃江さん Akie Sato



P.13 堀籠ファーム 堀籠 文夫さん Fumio Horigome



宮城県

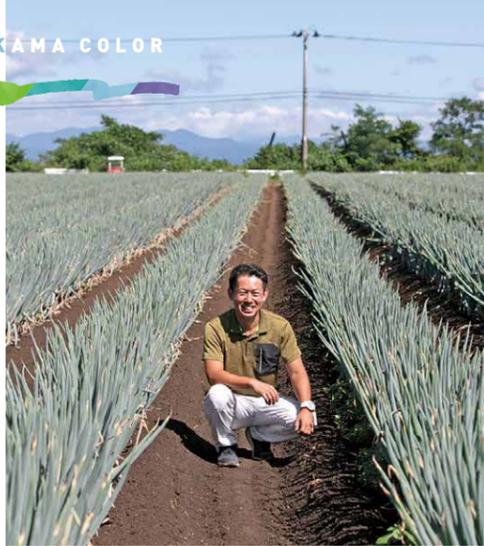
色麻町

しかまの
いいところ

色麻町の河童は子どもたちの守り神。自然の中でのびのびと遊ぶ子どもたちを河童はそつと見守っています。もちろん見守っているのは河童だけじゃありません。隣人を放っておけないのは、この町のいいところ。



色麻町が好きで引越して来た人がいたら、もっと好きになって欲しくて、「しかまいろ」にそまって欲しくて、河童と違ってどんだん声をかけに行きます。自然が豊かで、食べ物が美味しい田舎はたくさんあるけれど、それに加えて人が財産、それが色麻町。あなたもその一人になってみませんか？



「色麻町は土も気候的にもいいので作物が大きく育ちます。ねぎも同様で、太くて長いきれいなねぎがあると、やった甲斐があったなと思いますね」。米農家で育った庄子さんは、以前はJAに勤めていました。ねぎの栽培が盛んな地域だったため、ねぎ農家の方々から話を聞くうちに興味が湧き、自らねぎの栽培を始めました。

ねぎというと薬味のイメージですが、毎日ねぎを食べるといって庄子さんのおススメは、そのまま焼いたものを酒の肴にしたり、刻んでカレーのトッピングにするのも結構アリだとか。「自分で作ったものを食べるのは絶品ですし、生産者の醍醐味ですよ」。

「農業経験のない人でも、農業に魅力を感じて色麻に住んで貰えたらと思っています。一から始めると大変ですが、私の会社で人を雇う環境を整えば、農家出身の人でなくても農業に携われるようになるかと考えています」。ねぎを基幹にして、様々な農業スタイルを確立し、若い世代が農業を始めやすくなる仕掛けを作っていきます。



農家出身の人でなくても農業に携われるように

農業をやる傍ら、農業を主体とした会社の経営も行っています。また、地域の農協青年部の委員長もやっているので、もっと農業に魅力を感じ、始めてくれる若い人が増えることを願っています。

色麻の農業に魅力を感じてほしい



SHIKAMAER's VOICE

ねぎ農家

庄子 智弘さん

Tomohiro Shoji



SHIKAMAER's VOICE

繁殖農家

橋本 拓未さん

Takumi Hashimoto



人にも牛にも快適な町なので

一頭一頭丁寧に育てた口当たりの良い仙台牛

一見ストリート系な風貌ながら、生まれも育ちも色麻町の橋本さんは、黒毛和牛の子牛の繁殖を行う繁殖農家です。人工授精で生まれた子牛を約10ヶ月育てて市場に出荷し、この牛が仙台牛になります。

仙台牛は、きめの細かいサシや口当たりの良い柔らかさ、そして甘味のある脂がたまりません。「ここは夏場でも気温が25℃くらいまでしか上がらないので、宮城の軽井沢です。一頭一頭丁寧に育てていますので、皆さんぜひ食べてください」と橋本さん。



色麻の魅力がわかりやすくノリよく伝えていきます

実は子どもたちの憧れの職業、ユーチューバーでもあります。「4colors」というチャンネルで、黒毛和牛の繁殖はもちろん、野菜作り、趣味のクレー射撃、釣りの動画を届けられます。リアルな農業経営や色麻暮らしに興味のある人は必見！時々非公式色麻町PR動画もアップして、色麻の魅力をわかりやすく、ノリよく伝えていきます。

きれいな水と、その水で育った稲わらを1日30kgも食べて、すくすくと育つ子牛たち。「色麻町は空気がいいですし、自然がたくさんあるので、のびのび子育て出来るところも魅力かな」。人にも牛にも快適な町なのです。





まるで家族同様の付き合いも色麻ならではの

「実の娘のように可愛いよ」「私も助かっています」と佐藤さんご夫妻が言えは「助かっているのは私!」と高橋さん。隣に引越してきたたった3ヶ月で、まるで家族同様の付き合いなのも色麻ならではの。今日も桂子さんが作ったたくさん野菜を高橋さんにおすそ分け。

多加二さんは約30年間、魚取沼産系鉄魚の飼育をやっています。「鉄魚の魅力は尾が長く、おだやかで、色が変換すること。これは私が品種改良した青い鉄魚…」とこだわりを語ると止まりません。

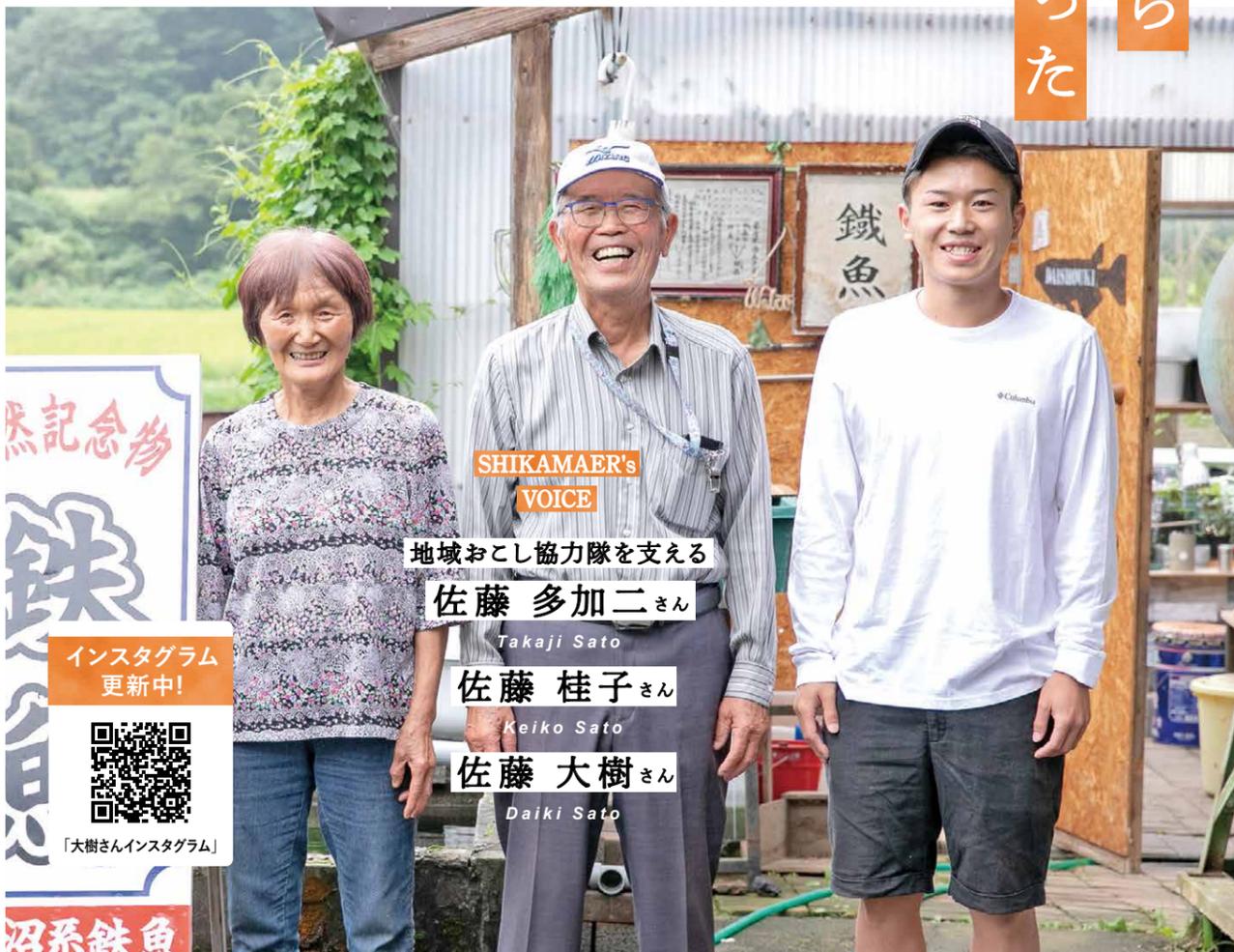
人はもちろん魚たちにとっても最高の水

2年前からはお孫さんもメダカの品種改良を始めたため、小屋の中には水槽がずらりと並んでいます。小栗山地区では上水道が湧き水。裏の杉山から来るというきれいな水は、人はもちろん魚たちにとっても最高の水です。

「結構ケンカもしますよ。おじいちゃん、頑固なので」という孫の大樹さんも、メダカの改良にかけては一家言あります。メダカは孵化から産卵のサイクルが早いので、掛け合わせのイメージを思い描き、それに近づけていくのが面白いのだとか。土地の恵みから、人の輪が広がっていきます。



土地の恵みから人の輪が広がった



SHIKAMAER's VOICE

地域おこし協力隊を支える

佐藤 多加二さん

Takaji Sato

佐藤 桂子さん

Keiko Sato

佐藤 大樹さん

Daiki Sato

Instagram 更新中!



「大樹さんInstagram」



SHIKAMAER's VOICE

地域おこし協力隊/鳥獣対策支援員

高橋 美智子さん

Michiko Takahashi

Instagram 更新中!



「高橋さんInstagram」「カッペイくんの色麻町」

人の魅力も含めて色麻町の良さを発信

将来は猟師になりたいと思っています

神奈川県相模原市から、鳥獣対策支援の地域おこし協力隊として色麻町に来た高橋さん。色麻町はイノシシの被害が多く、通常探るのが大変な道のりがそこ中にあるのだとか。その獣害に向けて対策を打ったり、町の方々が仕掛けたくり畷にかかったイノシシを処分するのも支援員の仕事です。「将来は猟師になりたいと思っています。私に異づくりから教えてくれた師匠がおりまして、その方は定年退職後に、農家の方々の田畑を守るために鳥獣対策に取り組んでいるんです。その姿が心に響いて、そうなりたいと思っています」。



色麻町の良さを広く世界に知って貰うことを願って

観光にも関わっており、鳥獣対策で暗視カメラに映った熊やカモシカの映像をSNSにアップしています。また町の文化財の資料をHP用に入力しながら、町の歴史を学んでいます。色麻町の良さを広く世界に知って貰うことを願って活動しています。

まったく知らない土地に飛び込んで来たわけですが、隣に住む佐藤さんご夫妻が気にかけてくださっているとのこと。「色麻町のお母さんみたいな存在です。殺伐としているのが当たり前都会で生きてきたので、その温かみが染み渡りました。人の魅力も含めて、色麻町の良さを発信していきます」。





**協力隊の募集へ
思い切って飛び込みました**

「りんごの栽培をやっているとと言うと、『えっ?』と言われる」と笑う太田さんの付まはは筋骨隆々。農作業に関わる方々は遅い人が多いですが、たぶん街で出会ったらとてもりんご農家とは思えません。それもそのはず、2022年4月に農業支援員として地域おこし協力隊になる前は自衛官でした。現在も「即応予備自衛官」でもあり、仕事のあとは10km以上走って体を鍛えています。

仙台市出身の太田さん。元々農業に興味はありましたが携わる機会がなく、色麻町で初めて農業で協力隊を募集すると知り、思い切って飛び込みました。

**りんごを通して
色麻の魅力を発信**

現在は南山果樹園で、剪定から収穫まで一連のりんごの栽培方法を学んでいます。りんごは基本的に、寒冷地や昼夜の寒暖差の大きい場所が栽培に適していると言われていいます。色麻町は宮城県の中では昼夜の寒暖差が激しい場所なので、りんごの生産が盛んです。

初めてりんごの栽培に関わる太田さんにとって、この1年間の作業は新しいチャレンジばかり。美味しく大きなりんごに育てるため、摘果作業を行いながら、実りの秋を楽しむにしています。国を守る仕事から、色麻町を守るお仕事へ。りんごを通して色麻の魅力を発信していきます。



**国を守る仕事から
色麻町を守る仕事へ**



SHIKAMAER's VOICE

地域おこし協力隊／農業支援員

太田 幸啓さん
Yukihiro Ohta



SHIKAMAER's VOICE

地域おこし協力隊／鳥獣対策支援員

長谷川 巧さん
Takumi Hasega

**色麻は面白い人が
多いんです**

**獣害対策という仕事に
関わりたい**

高橋さんと同じく鳥獣対策支援の地域おこし協力隊として来た長谷川さんは、何とまだ21歳です。この日は町の鳥獣被害対策アドバイザーの鈴木さんと一緒に、動物の痕跡調査をやっていました。東京都練馬区出身の長谷川さんは、高校卒業後に猟銃の免許を取得したことがきっかけで獣害対策という仕事を知り、その仕事に関わりたくと色麻町に来ました。

アドバイザーの鈴木さんは獣害対策の知識も豊富。獣害の発生した現場に行き、被害に遭われた方から詳しく状況を聞きながら、毎回の確なアドバイスや指導を行う姿は、長谷川さんの憧れです。



**地元の人と話す機会も多く
勉強になります**

動物の痕跡調査をすることによって、農作物の被害を最小限に食い止めたり、移動経路を知ることが出来るそうです。しかし、調査場所は鬱蒼とした繁みの中。ぱったり熊と鉢合わせそうな雰囲気です。実際調査していたものは、熊やイノシシ、タヌキ、アナグマ、ハクビシンなどが通っているとのこと。木に巻き付けてある赤外線センサーカメラが、大きなイノシシの姿を捉えていました。

結構危険な仕事ではありますが、「楽しいですね。地元の人と話す機会も多いので勉強になるし、色麻は面白い人が多いんです」と、この仕事を楽しんでいます。





「私は隣の町から色麻町に越して来たのですが、色麻でりんごを作っていることを知らなかったんです。早坂さんのりんごがすごく美味しくて、『何か手伝えることありませんか？』と無理やり押し掛けた感じなんです」と小林さん。いつも笑いの絶えないふたりは、この町に移住してきた子育て世代。「ここに来ていろいろなことをやってみたいと思い、農業の経験はありませんでしたが、本当にここに魅了されて、お手伝いを始めました」と石岡さん。早坂さんから畑を借りて、始めはトマトなどを植え、収穫を楽しんでいましたが、今年からはりんごの摘果のコツなども教えて貰い、スキルを伸ばしています。

本当にここに魅了されて
お手伝いを始めました



SHIKAMAER's
VOICE

早坂果樹園

早坂 康雄さん

Yasuo Hayasaka

早坂 敬子さん

Keiko Hayasaka

色麻町の陽だまりの
ような場所

仙台圏の人たちと
ご縁が広がりました

農業の休憩時間のお供は、敬子さんお手製のきゅうり漬けともぎたてのミニトマト。去年から早坂さんに畑を借りて、農作業のお手伝いをしている石岡さんと小林さんは、「あたごふれ・愛タウン」がある向町地区に住む移住者です。早坂さんのりんごの美味しさに惚れ込み、早坂果樹園に通っています。

早坂農園では米や野菜、そしてりんごを育てています。色麻のりんごの知名度が今ひとつ低いと感じていた10数年前、仙台の市民センターまつりに参加して欲しいと声がかかりました。そこで知り合った人たちがりんごの木オーナーになるなど、仙台圏の人たちとご縁が広がりました。



色麻町のりんごの知名度も
上がってきました

また震災の時には、以前から農園に通っていた方のご縁で支援物資を送り、今も沿岸部の方々との交流が続いています。色麻町のりんごの知名度も上がりました。

野菜も無農薬ですが、早坂さんのりんごは「葉とらずりんご」。通常はりんごの表面をムラなく赤くするため、実が赤くなる頃に葉摘みをするのですが、太陽の光を浴びた葉が作りだす養分を蓄えた「葉とらずりんご」はもっと美味しくなります。早坂さんご夫婦の優しさに包まれ、色麻町の陽だまりのような場所にみんなが集います。



ここに来て色んな
ことをやってみたい



自然の恵みを
自分の手で感じながら

ひとりでは大変だけれど、休日にここに来てふたりで、時には早坂さんも一緒に、お喋りしたりいろんなことを教えて貰いながら、作業を楽しんでいます。ニンニクを掘っていると大きいミミズが！栗のイガなどこの土地にあるものを肥料にして作られた豊かな土で、作物も虫たちも何でも大きく育っているのです。

「その里いもの葉なんて、秋になると子どもたちが、アニメみたいに傘にしますよ」と小林さん。自然の恵みを自分の手で感じながら、子どもたちもすくすくと育っていきます。

SHIKAMAER's
VOICE

Apple Factory
小林 歌純さん

Kasumi Kobayashi

SHIKAMAER's
VOICE

Apple Factory
石岡 美鈴さん

Misuzu Ishioka



Instagram
更新中!



「Apple Factory」



やっぱり安心・安全なものを食べさせたい

「子どもが2人いるんですが、上の子が生まれた時に授乳したり、離乳食で大きくなる子どもを見ていたら、食べ物大切さを実感したんです。だからやっぱり安心・安全なものを食べさせたいと思って、昨年の春から野菜作りを始めました」。父・浦山利定さんの畑を継いで、娘の晃江さんが野菜作りを始めたのは、母となり、改めて食の大切さに気づいたことがきっかけでした。富谷市で暮らしながら、色麻町で「通い農業」をしています。もちろん利定さんに倣って無農薬・無肥料で育てているのは、ピーマンにナス、そして枝豆。まだ収量は多くはありませんが、今後はRice Fieldでお客様に食べていただく、地産地消を目指しています。



色麻の自然の恵みと食へのこだわり

Instagram 更新中!

「Rice Field」

色麻町の食材をふんだんに使ったメニュー

1998年のオープン以来変わらない、自然に囲まれたウッドイナ竹まい。農家レストラン「Rice Field」では、自家製の米と色麻町の食材をふんだんに使ったメニューがいただけます。

定番の豆腐ハンバーグや唐揚げセットに加え、季節ごとのメニューが色麻の四季を彩ります。春はマスターの浦山利定さんが山で採ってくる「山菜御膳セット」、夏はトマトが丸々1個分入ったトマトとナスの冷製パスタ、秋は「天然きのご御膳セット」、そして冬の宮城県産牛を使ったビーフシチューは、店内の薪ストーブでコトコト煮込んでいきます。



お店の前に広がる田んぼでお米を育てています

お店の前に広がる田んぼでは、浦山さんが無農薬、肥料不使用でお米を育てています。無農薬のコツは水管理。田植えをする1ヶ月前に田んぼに水を入れ、代掻きを3回行うことで雑草の芽を取り除きます。

お店では、浦山さんの妻・恵美子さんが調理を担当し、長女・典江さんが、自家製米粉や自家製甘酒、色麻町のブルーベリーやかぼちゃなどを使い、季節に合わせて作る手作りスイーツも提供しています。色麻の自然の恵みと、食へのこだわり溢れるお店です。



改めて食の大切さに気づいたことがきっかけ



父から娘に引き継がれた夢

色麻のりんごを使ったドライフルーツやگرانノーラなどの販売も、Rice Fieldとオンラインで始めました。今後は畑から採れた野菜をドライにしたり、収穫体験も考えています。「娘は自分で収穫したことがきっかけで、ナスが食べられるようになりました。野菜嫌いな子は、収穫体験するといいかもかもしれませんね」。無肥料に適した品種や、色麻の土地に合ったこの土地ならではのものも育てたいと、父から娘に引き継がれた夢はこれからも大きく広がっていきます。

SHIKAMAER's VOICE

asahi farm 佐藤 晃江さん Akie Sato



Instagram 更新中!

「asahi farm」

地域活性化住宅

今も未来も心地よく



お買いものや通学に
便利な住環境です



子育てファミリーにピッタリの賃貸住宅が色麻町にあるんです。
移住前のお試し移住としてもご利用可能。



入居条件(やまびこ住宅・あたご住宅)

- ・地域貢献に積極的に参加できる方
- ・小学生以下のお子様がいる方、もしくはお子様がいない平均年齢40歳未満のご夫婦

実際に生活している方に
聞いてみました!!

子育てしている人に生活しやすい
家づくりをしているので、住み心地
はとてもいいです。収納スペースも
たくさんあるし、白の内装がきれい
でテンションが上がります。



佐藤 愛望さん

やまびこ住宅
Yamabiko

メゾネットタイプ
3LDK

高校生以下のお子様がいる場合 家賃 35,000円

- 駐車場: 2台まで(月1,000円/台)
- 敷金: 105,000円



あたご住宅
Atago

メゾネットタイプ
3LDK

中学生以下のお子様がいる場合 家賃 45,000円

中学生以下のお子様がいる場合 家賃 35,000円

- 駐車場: 2台まで(月1,000円/台)
- 敷金: 105,000円



SHIKAMAER's
VOICE

堀籠ファーム
堀籠 文夫さん
Fumio Horigome

この地域で何か
楽しいことをやりたい

お互いに交流を深め
地域に溶け込んで欲しい

あたご住宅のそばにある畑にたわわに実ったミニトマトを、子どもたちがもぎたてをパクリ。色麻町役場の職員だった堀籠文夫さんが、定年退職後に移住者がお互いに交流を深め、地域に溶け込んで欲しいと、貸してくれている畑です。

みんなで共同で野菜作りをしている畑と、それぞれの家族が好きなものを作る畑があり、毎週日曜日にみんなで苗を植えたり、草むしりをしたり、堀籠さんから野菜作りのコツを教えて貰っています。



まるで昭和のような
懐かしいコミュニティ

「いずれは収穫祭や、この地域で何か楽しいことをやりたいね。子どもたちには大きくなったら、この土地全部で野菜を作って欲しい」と笑う堀籠さん。

共同で育てているのはかぼちゃに枝豆、トマトやナス、じゃがいもとさつまいもも。自然豊かな町に移住したら、土いじりをしたいという希望も叶い、ここで育てた野菜を山分けするから、いっぱい食べる子どもたちがいるご家庭も助かるとか。まるで昭和のような、懐かしいコミュニティがここにあります。

